

※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範疇のものとして捉えて下さい。

PECS フェイズ③：選んで、手渡す

¶ フェーズ②は以下の内容について学ぶ段階でした。

- (1) 1枚のカードについて、離れた大人にカードを自分から手渡して要求を伝える。
- (2) 1枚のカードについて、離れたところにあるカード自分で取って、それとはまた違う離れた所にいる大人にカードを手渡して要求を伝える。

¶ フェーズ③では以下の内容について学ぶ段階です。

- (1) カードを「好きなもののカード」と「嫌いなもののカード」の2枚に増やし、「好きなもののカード」を選んで、手渡して要求を伝える。
- (2) 嫌いなものがいるカード群から一番要求したいものを選択して、手渡して、要求を伝える。
- (3) より抽象度の高い絵カードへ移行していく。

¶ 以下に(1)から(3)についてのトレーニング方法について順番に解説していきます。

段階(1)『カードを「好きなもののカード」と「嫌いなもののカード」の2枚に増やし、「好きなもののカード」を選んで、手渡して要求を伝える』のトレーニングについて

この段階ではまず、①子供が欲しい物（もらうと喜ぶ物）と②子供が嫌いなもの（差し出されると怒るもの）の2つをカードにしてトレーニングを始めます。例えば①子供が欲しいものとして「麦チョコ」、②子供が差し出されると怒るものとして「梅干し」のそれぞれカードと実物を用意し、子供にカードと実物のつながりについて学習させます。同時提示した際、提示する先生の指差しの支援は厳禁です。子供が自発的に好きなもののカードを選択して、手渡すことの正答率が100%に近づいたらこの段階を通過とします。

もしうまく行かない場合には、以下のように手がかり刺激（プロンプト）を増やします。

- A. 2つのカード間の色や形が明らかに違うものにする。
- B. 2つのカードの背景の色を違うものにする。
- C. 2つのカードの大きさに違いをつける。

但し、以上のプロンプトはできるだけ早くなくしていく（フェーディング）することが推奨されます。

段階(2) 嫌いなものがいるカード群から一番要求したいものを選択して、手渡して、要求を伝える。

- ① まず、嫌いなものがいるカード群から「1枚取っていいよ」と伝える。
 - ② カードを受け取ったら、次に「オッケー〇〇ね。この中から持っていいよ」と、カードに対応した複数の具体物を提示して、その中から手渡したカードと同じものが取れる。
- ※ エラーが出た場合には「カードと同じものしか交換できない」ことを理解させる。

段階(3) より抽象度の高いカードへと移行していく。

以下のような段階で写真とシンボルを同時提示して、段々とシンボルを大きくしていく。

